

## 令和7年度 八王子市立南大沢中学校の学校評価(自己評価)について

## 1 教育目標

・よく学び、創造する生徒 ・進んで協力し、思いやりのある生徒 ・健康で、逞しい生徒

## 2 めざす学校 ・「明日も行きたくなる居心地の良い学校」

- ①確かな学力を身に付ける。 ②自らの将来に向けて希望をもって卒業する。  
③基本的な生活習慣を身に付ける。 ④人権が守られ安心して学校生活を送ることができる。 ⑤保護者・地域から信頼される。

## 3 今年度の基本方針

- ①新たな不登校を生まない対策と現に不登校(傾向)の生徒への支援の充実を図る。  
②学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等を推進し、いじめを許さない学校を実現する。  
③校内外での研修を通して教員の授業改善を進め主体的・対話的で深い学びの実現のもと、生徒の学力向上を図る。  
④八王子市部活動改革の方針にのっとり、令和9年度から新たな形で部活動を実施できるよう準備を進める。  
⑤柏木小学校及び南大沢小学校との小中一貫教育をさらに充実させるとともに、保護者、地域、関連都機関との連携を強め、地域の特色を生かした地域教育の推進を図る。

## 4 具体的な取組

## (1)不登校・いじめに関する取組(方針①②)

- ①全学年でQ-U調査を実施して、生徒全員の個性や悩みを把握、不登校の未然防止や早期解決を図る。  
②支援教室(フォレストルーム)を設置して、教室に入れない生徒が利用できる居場所づくりを行う。  
③不登校対応巡回教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センターと連携し、不登校生徒の抱えている問題の解決を図る。  
④いじめに関する調査を毎学期行うとともに、子ども見守りシートの活用と教員による生徒の常時観察、週に1度の学校いじめ対策委員会開催によりいじめを見逃さない環境づくりを行う。  
⑤いじめ予防の観点から朝礼、道徳授業、行事やその他の活動等、あらゆる場面で自尊感情・自己肯定感を高め、思いやりの心を培う指導や講話を適宜実施する。  
⑥1学期に「いのちの大切さを共に考える週間」を実施、すべての教科でいのちの大切さについて触れる授業を行う。

## (2) 授業(学習)の取組(方針③)

- ①授業・学習活動は、ICTを積極的に活用し、生徒自身が、考えたり、調べたり、比較したり、議論したりするなど、生徒が活動する場面を重視した授業方法へ改善していく。  
②教材研究に努め、指導方法を工夫して、分かる授業・成就感がもてる授業を行う。  
③毎回の授業目標をしっかりと提示し、最後には振り返りを行うことでその時間の内容の定着を図る。  
④生徒・保護者に信頼される評価・評定を行う。  
⑤朝読書を継続して行い、落ち着いた1日のスタートを切らせる。  
⑥放課後や長期休業中に補習授業を行い、学習内容の習得が不十分な生徒の支援を行う。  
⑦学校サポーターやインターンシップ、都立大学生ボランティアなど外部人材を活用し、個別指導を充実させる。  
⑧都立大学学生ボランティアを活用した放課後自習教室を定期的に関き、生徒の自主的な学習習慣を付ける機会とするとともに、英検などの資格を取得する支援を行う。  
⑨通常学級と特別支援教室の連携を強め、特別支援教育の視点から一人一人の特性に応じた学習指導を行う。  
⑩生涯に渡りスポーツに親しめるよう興味・関心を高め、基礎体力や運動能力の向上を図る。

## (3)学校生活の取組(方針④)

- ①部活動再編委員会を中心に、令和7年度からの部活動について生徒の思いも取り入れながら再編を進める。  
②全教職員が共通理解の下、生徒の内面に対する理解に努め、生徒の健やかな成長を促し、心の健康を保てるよう予防的な生活指導に努める。  
③校内全体で「あいさつ」を心掛け、気持ちよくあいさつする習慣をつくる。  
④話し手を見て、話を静かにしっかり聞く習慣をつくる。  
⑤場に応じた正しい言葉遣いができる習慣を身に付ける。  
⑥社会のルール・マナーを守る生徒を育成するため、まずは、学校のルール・マナーをしっかり守れるよう全教職員で同一歩調の指導を行う。  
⑦生徒会活動、ボランティア活動、地域行事参加等を通して、より良い人間関係を築く力、地域に貢献しようとする態度、自治能力の育成を図る。

## (4)小中一貫教育、地域連携の取組(方針⑤)

- ①小中一貫教育の日を学期に1回設け、授業交流を行い、互いの児童・生徒の様子を確認し、9年間で育成する児童・生徒像について理解を深める。  
②本校の教員が2つの小学校へ出向き、年間を通して、授業や授業補助を行う。  
③小中の児童・生徒が合同で行う活動 ・中学生(陸上競技部)が走り方等の指導に出向く。 ・中学校において、授業体験・部活動体験を行う。  
・中学校において、中学校の合唱祭に児童(6年生)を招待する。  
④9年間を見通した家庭学習の充実のため、タブレット端末を利用したドリル型学習コンテンツ等の活用を共有する。  
⑤PTA 活動や地域活動に積極的に参加する教員・生徒を増やすとともに、地域人材を活用した取り組みを実施する。

## 令和7年度の学校評価 について

### (1)不登校・いじめに対する取組について

不登校予防・支援の取組については、昨年度以降、継続している方策をすべて行うことができた。さらに不登校対応巡回教員が配置されたことで、週2日だったフォレストルームを週3日に増やすことで、登校できるようになった生徒が増え、学校とのつながりをつくることができた。フォレストルームでの教員との学習や面談、給食は、生徒の学習面での意欲や進学意欲を高め、未来へ向けての希望を高める効果がある。次年度以降も、不登校対応巡回教員と密に連携をとりながら、この取組を進めていきたい。

いじめの取組としては、いじめ認定は数件を教員全体で把握しているが、いずれも早期発見、早期対応したことで、すでに解決したものや観察継続中がほとんどである。今後も、毎週定例開催しているいじめ対策委員会を中心にいじめ予防・早期発見に尽力していく。なお、重点方策である、QU調査を活用した学級経営については、心理士の講師を招き、具体例を提示しながらの実践的な研修を今年度も実施することができた。全教員が活用方法を学んだことで、生徒理解を深め、個別指導や教育相談時に活用することができた。次年度以降もこの研修を継続していく。

不登校対策やいじめに関する学校評価の結果が以下の通りである。

○「自分(子ども)の大切さ、他の人の大切さを認め、行動することができるように先生たち(学校)は指導している」肯定的評価、生徒86%(昨年度88.3%)、保護者72.6%(昨年度84.5%)

○「いじめの未然防止、早期発見、早期対応等いじめを許さない学校作りに取り組んでいる」肯定的評価、生徒83.8%(昨年度81.6%)、保護者63%(昨年度74.7%) 保護者不明回答34.2%(昨年度17%)

生徒の肯定的回答がほとんど80%以上であるが、保護者の回答が低めになっている。ただし、不明回答が多く、否定的な回答がそれほどあるわけではないので、学校だより、ホームページ、保護者会等で繰り返し発信・説明していきたい。

### (2)授業(学習)の取組について(特別支援教育を含む)

今年度の授業評価について、「先生たちは、授業において説明、板書、話し合い活動、視聴覚機器(ICT 機器)の活用などの工夫に取り組んでいますか。」の肯定的な回答が生徒90.7%、保護者79.4%(不明15.1%)と教員が授業を分かりやすくするために工夫して取り組んでいることに好評価である。教員の自己評価では、同じ質問に対して、一昨年80%、昨年100%、本年89.9%がよくできていると答えており、R7年4月に多数の教員の異動によって入れ替えがあったために、少し減退したが、次年度も重点課題として授業改善に継続して取り組んでいきたい。方策としては、今年度に引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点からタブレット端末を活用した授業研究を組織的に行う。また、学校全体で授業力の向上を図るために教員全員が年間1回以上の校外での研修や指導教諭の模範授業に参加し、優れた取組や実践を校内に還元し、共有し合う研修については進路指導主幹を中心として推進していく。また、教師の授業改善と同時に生徒自身の学習意欲向上、学習習慣付けが学力向上には欠かせない。昨年度から取り組んでいる、毎週月曜に実施している放課後自習教室では、都立大学の学生ボランティアが学習補助に入っている。それを大々的に宣伝し、利用を生徒・保護者に呼び掛けたところ自主参加する生徒が増加した。今後も継続して、自主学習する生徒を増やしていきたい。その他の学習面に関する学校評価は以下の通りである。

○生徒向け「自分は、落ち着いて学習に取り組んでいる。」肯定的生徒は79.2%(昨年度84.2%)

○保護者向け「学校の子どもの学習活動に対する評価は適切・公平である。」肯定的保護者69.9%、不明17.8%(昨年度70.4%、不明14.1%)

これを受け、落ち着いて学習に取り組むことができるよう、ユニバーサルデザインを取り入れ、教室前方の壁面に掲示物を貼らないことや棚をカーテンで目隠しするなどの工夫をしている。また、保護者の不明回答が多かったため、保護者会や三者面談等でしっかり説明していきたい。

### (3)学校生活の取組について

令和9年度に向けての部活動改革推進であるが、移行中の本年度は計画通りできた。令和8年度については、新設する予定の部活動が外部指導者確保の面で未定であるが、なんとか発足できるようにしていきたい。令和7年度はガイドラインの順守やボランティア部の新設で、生徒の活動をよい意味で保証できた。また、拠点校部活動を2つにしたことで、他校の生徒が入部できる環境もつくり、実際に女子硬式テニス部では2人の他校部員を迎えることができた。拠点校部活動としての課題はあるが、今後もできるだけ受け入れていく態勢をつくっていきたい。

生徒自身の評価では「学校の目標やきまりを守っていると自覚している生徒」が87.7%(昨年度80.1%)で上昇している。生活指導では、生徒の自主性と自立性を中心視した指導で行っている。日本人の規範意識低下が懸念されている今こそ、中学校卒業までに社会に出て通用する規範意識をもたせたい。朝礼での講話、道徳授業、各教科の中でも「自分自身を守るため」の規範意識向上について指導を進めていきたい。

○「先生たち(学校)は生活指導を適切に指導している」肯定的評価、生徒91.5%(昨年度79.2%)、保護者76.7%(昨年度80.2%)

### (4)小中一貫教育(南大沢中学校ブロック)や地域連携について

保護者による学校評価は以下の結果である。

○「学校は保護者に対して、たよりやHP・メールなどで適切に情報を提供している」肯定的評価 95.9%(昨年度88.7%)

○「子どもを南大沢中学校に通わせて良かった」肯定的評価 86.3%(昨年度90.2%)

○「学校は小中一貫教育を特色ある取組として行っている」肯定的評価 90.4%(91.6%)

以上のように、全学校評価項目の中でも昨年度から継続して高い評価の3つとなっている。

南大沢中学校グループ(柏木小学校・南大沢小学校)内での生徒児童交流や教職員同士の交流は、教員による授業体験、部活動体験をはじめ、生徒による児童への走り方指導、授業体験時の本校生徒による授業アシスタント交流、生徒会児童会交流、職場体験での中学生による学習指導補助など今年度も予定通り実施できた。引き続き、交流機会を増やし、南大沢中学校グループの9年間を見通した小中一貫教育を推進していきたい。

### (5)その他

STEAM教育については研究1年目ということで、題材を探すところから始めた。結果的に2学期から取組を開始した形になったため、今年度はスケジュール的に厳しい時間配分となり、3学期の最後まで取組を行った。なんとか、目指す部分、「地域の大学や企業と連携しながら、南大沢地域の課題解決に向けた探究的な学習活動を進める」を2年生で実施できた。次年度も新2年生で、もう少し計画的にゆとりをもって取り組んでいきたい。